

守りたいのは、いのち **NGO SHARE Free Paper**

SHARE LIFE



<http://share.or.jp> | volume 005 | [シェアライフ]

第5号

(特活) シェア=国際保健協力市民の会

シェアは、世界中の人々がもっと健康な生活をおくれる社会を目指して、アジアで活動する保健医療専門のNGOです。

TAKE FREE



2013

1

「つながり」を知って、気持ちを届けよう 特集 東ティモール

シェアの活動地の1つ、東ティモール。

日本と関わりの深い東ティモールと共に歩いていく明日に向けて、私たちが今できることは何でしょうか。

SHARE LIFE
contents

私のSHARE LIFE / take action! ~シェアではじまる社会貢献~ / シェアちゃん&アーちゃんのちょこつと豆知識 / みんなのVoice便 / シェアとは

「つながり」を知って、気持ちを届けよう ～東ティモール特集～

2002年の独立から10年になる「東ティモール民主共和国」。シェアは、独立時の緊急支援の後、保健教育のできる人材の育成を続けています。いまだ感染症で命を落とす人が少なくない国ではありますが、草の根運動のような地道な活動が着実に成果を生んでおり、少しずつ保健・衛生環境を改善に向かわせています。

さて、日ごろシェアがつながっているのは、一緒に活動する東ティモールの個々人の「人」。しかし、実は活動全体を見渡すと「日本」と「東ティモール」という国と国の関係など、様々な側面でのつながりも見えてきます。今号では「つながり」をテーマに深堀し、日本の皆さんに、東ティモールに親近感を持っていただきたいと考えております。

シェアは東ティモールで何をしているの? 国とつながる「国づくり支援」

インドネシアのバリ島から飛行機で約2時間。ティモール島の東半分が東ティモールです。人口は約110万人、岩手県ほどの小さな国です。16世紀からポルトガルの植民地に、1975年からインドネシアに侵攻されましたが2002年にようやく独立を果たしました。長年続いた外国の支配下では、東ティモールの人々は教育の機会も限られ、物事を決定したり、組織を運営する機会や場を奪われてきました。そのため、独立後の最大の困難は「人材不足」。シェアは、村で保健教育ができる人材の育成に力を注いできました。

2007年からは、政府が制定した保健ボランティアプログラムの支援を開始。へき地に暮らす人々も基本的な保健医療サービスを受けられるよう、地方保健行政の能力強化を行っています。また、学校で保健教育を行う学校保健プログラムの制定に、政府と共に取り組むなど、保健医療分野から国づくり支援をしています。このように、「東ティモール」という国自体との「つながり」があるのです。

人とつながる「保健・衛生活動支援」

現在の活動の柱は、エルメラ県の「学校保健活動」とアイレウ県の「母子保健活動」。学校保健活動は2007年に開始し、今では、現地スタッフや児童たちも主体的に活動をしています。2012年の6月には、「歯の痛み」と「食事の時の手や爪の黒さ」に着目したライラコ郡の小学校の学校保健推進担当の児童たちが、全校児童の学習の場として手洗いと歯磨きの「ミニ保健コンテスト」を実施。事前に手洗いと歯磨きのポイントを学んだ児童たちが、先生顔負けの様子で手洗い方法を教え、爪や手をチェック。「爪の間の黒い汚れは、ばい菌がいっぱいいるからブラシで良

くこすつて」と言葉が飛び交い、笑顔でコンテストを終えました。児童主体の有意義なコンテストになりました。



一方、母子保健活動では「USCAL」という移動式診療所が大活躍。

病院が遠いために、妊婦健診や予防接種を受けられない環境を改善するために、へき地の村で月に1回の健診を行うお手伝いを行っています。10年間で東ティモールの乳児死亡率は半減しましたが、その背景にはこのようなNGOの活動も貢献しているのです。独立に向けた混乱の中で、十分な教育を受ける機会がなかった村人たちに、量りを読んだりグラフをつけることから教え、母子保健のボランティアとして村人の前で保健教育ができるように育成をしてきました。10年前にはアイレウ県に一人もいなかった保健ボランティアは今では、現在200名を数えます。これからも保健ボランティアの育成にはさらに力を入れていきたいと思っています。シェアが重視している保健に関わる人材の育成。「個人」と「個人」が「つながる」機会の多い活動です。

暮らしとつながる「雇用創出」

東ティモールで安定した現金収入を得られる主な職業は「公務員」や「NGOや国連機関」です。主要な産業がないため、後は、野菜やコーヒーなどを販売しながら生計を立てている人がほとんどです。シェアのスタッフは、安定収入がありませんから、皆「家の大黒柱」。しかし、収入面だけで比較すると、他のNGO等のほうが高いのですが、シェアのスタッフは長く働いています。現在のスタッフは全員2年以上勤務しており、長いスタッフは10年。「なぜシェアで働くの?」と尋ねると、全員、いつ

私のSHARE LIFE

Vol.05

全ての国民が健康に暮らせる国に

アシスタント・コーディネーター アグスティーナ・ゴメス



日本の皆さん、東ティモールを支援してくださり、ありがとうございます。シェアで働いて5年間になります。東ティモールでは大学などの高等教育を受けられる人はわずかですが、両親は、8人の子どもをかかえながら私を高校に行かせてくれました。シェアに入った頃は、パソコンも得意ではなく、電話番号リストを作るのさえも何日もかかるほどでした。その後、様々な研修を受けたり、日々の活動を日本人と東ティモール人で良いチームワークを基に進めていったりと、多くのことを学び、経験を積んできました。また、ただ研修を受けるだけでなく、私自身も努力を続けてきました。成長できる機会があるのは、やりがいにつながっています。今では保健ボランティアプログラムの認定トレーナーとして、他県や他のNGOに派遣されるようにもなりました。村の厳しい保健医療状況の改善に取り組むこの仕事を、家族も喜んでくれています。またこの収入が、日々の暮らしや6人の子どもの教育を支えています。「政府が何かをしてくれるのを待つのではなく、自分が国に対して何かができるのか、私がいとも自分に問い続けています。まだまだ多くの困難を抱えている東ティモールですが、全ての人が健康に暮らせる国になること、それが私の夢です。」



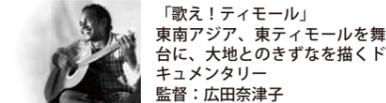
海外スタッフが来日!

2013年4月に、3カ国の現地スタッフが来日し、エイズ、母子保健、保健教育など、それぞれの地で培ってきた学びを共有します。詳しい情報はWEBサイトでお知らせしていきます。

take action! ~シェアではじまる、あなたの社会貢献~

東ティモールの歴史を知る映画「歌え! ティモール」

東ティモールのことを知るなら、東ティモール映画「歌え! ティモール」がオススメ!



シェアが開催した映画上映会では、沢山の方が、熱いコメントを寄せてくださいました。

- 東ティモールの歴史を知るきっかけとなった。歌がとても心にしみた。
東ティモールの人がどんなに苦しい時もうらむことのない生き方に感動しました。
先の見えない軍事支配が続くなか、全て暴力で対抗するのではなく、捕虜に対し自分たちの想いを伝え、無傷で帰す、表現のしようがない強い精神のある人々だと思いました。家族が力を合わせて生活する、今の日本が忘れてしまった姿だと感じました。
自分が日本で普通に生活していた時期に、独立を目指して闘っている人・国があったことを知り、日本がどれだけ平和な国であったか、また日本に生まれたからこそ何ができて何をしていたのか、考えさせられた。
素敵な国になって欲しいなと、思いました。東ティモールと日本の絆が更に深まると嬉しいです。

コーヒーで応援!

コーヒー購入で、シェアの東ティモールプロジェクトの支援ができます!

シェアの活動地でもあるエルメラ県で育ったコーヒーは、農業や化学肥料を使わない自然農法で作られています。直射日光があたらないように、コーヒーの木の周囲にはネムの木が植えられ、その木陰で育ちます。熟成した豆を手摘みし、丁寧に豆を選別してつくられた、香り高い高品質のフェアトレードコーヒーです。

ご自宅用や職場で、そしてプレゼントやお使いのものにぜひ、ご利用ください。

東ティモールの美味しいコーヒーをコーヒータイムのお供に加えることにより、東ティモールの子どもたちが、ちょっとずつ健康で幸せな暮らしに近づきます。



1袋 200g 1,000円 (税別)



贈答用 200g×2袋 化粧箱入り 2,100円 (税別)



ドリップパック 5袋入り 600円 (税別)

*ご注文: http://share.or.jp/shop/

東ティモールを応援しよう!

表紙の写真は「手作り手洗いステーション」。油のボトルを再利用して作られ、小学校や母子健診の場で使われています。ひしゃくで掬うとたくさんの水がこぼれて無駄になりますが、これは少ない水で両手を洗うことができ、水を有効利用できます。

東ティモールの皆にとって、水は貴重。山がちで余分な水はなく、子どもたちが1時間も歩いて水汲みをしています。貴重な水は炊事などに優先して使われ、手洗いなどは後回しです。手洗いステーションは、少ない水で手を洗え、労働からの解放と衛生環境改善につながる仕組みなのです。

この手洗いステーションを現地でつくる、材料、作業費は約1,000円。

日本の皆さんの、ランチを少し節約して、東ティモールの未来ある子どもたちが、食事の前に手を洗えるよう、是非ご協力をお願いします。



クレジット決済の場合

シェアホームページよりお手続きください。 http://share.or.jp/share/campaign/et/

郵便振替の場合

口座番号: 00100-1-132730
口座名: 特定非営利活動法人シェア国際保健協力市民の会
*備考欄に「東ティモール指定」と記入をお願いします。
*シェアは認定NPOです。シェアへのご寄付は寄付金控除の対象となります。

「東ティモールの人々にMY歯ブラシを」 - 歯磨きキャンペーン In グローバルフェスタ -

もし歯が痛くなったら、あなたはどうしますか? おそらく、皆さん歯医者に行きますよね。しかし、東ティモールでは・・・?

実は、「その痛みに耐える」か「痛い歯を抜いてしまうか」のどちらか。東ティモールには、人口約120万人に対し歯科医が7人しかいません。日本のように腕のいい歯医者を探すどころか、歯医者に行く事すら困難な状況なのです。歯磨きに対する意識も薄く、歯ブラシも手に入りづらいため、家族で1本の歯ブラシを使いまわしていたり、毛が痛んだものを使い続けていたり、十分な予防ができていません。「なんで歯を磨かないの?」東ティモールの子どもたちに尋ねてみると、こんな答えが返ってきました。「だって、自分の歯ブラシがないだもん」

そこで、シェアでは東ティモールの人々に歯磨きを習慣づけてもらうため、2012年10月、日比谷公園で開催されたグローバルフェスタにて、メッセージ付きの歯ブラシを教材として送る「歯ブラシキャンペーン」を行いました。皆さんにご協力いただき集まった525枚のメッセージ。そのメッセージをひとつひとつ歯ブラシにつけ、東ティモールへ届けます。はじめて手にする「MY歯ブラシ」で、もっと歯磨きが身近なものになって欲しい・・・。私たちは、保健衛生や病気予防などの保健教育を通して、子どもたちの健康を守るための支援をしています。

Vol.05 シェアちゃん&アーちゃんのちょこっと豆知識



今、少しずつ現地に運んでいます



皆さんからいただいたメッセージ



みんなから歯磨きしよう! ゆっくり現地に運んでいます

私たちにできること



東日本大震災では、「私たちに祈ることしかできない。」と緊急のミサを日本のために開いてくれました。東ティモール政府は、震災後、日本に50万ドルの義捐金を送付してくれています。自分たちの国でも苦労が絶えないのに、この温かい気持ち嬉しいですね。支援を受ける側としての「つながり」もあるということ。第2次大戦中は日本が東ティモールを占領した時期もありました。しかし、独立後は国の発展に向けて、日本政府は主に道路や橋などのインフラ整備を支援しています。また日本のNGOも様々な分野で活躍しています。その他、日本車や家電への信頼は強く、「日本は品質の良いものを作れる、信頼できる国」という印象が強いようです。東ティモールから見た日本って? 今、少しずつ現地に運んでいます

みんなのVoice 便

シェアを支える皆さまからのひとことコーナー。今回は、2012年夏に開催されたシェアスタディツアー(タイ/カンボジア)に参加された皆様からの声をお届けします。

エイズプロジェクトに参加する タイスタディツアー

- ❑ 地道な活動を10年以上続けている姿に感銘を受けました。本当の意味で信頼関係を作ること、何より「継続する」という根気強さが大切だ、ということ、同時に、拒否感情を持つ人々や無関心な人々を巻き込むことの難しさも学びました。
- ❑ コープunker(ありがとう)。この言葉が真先に思い浮かぶ旅でした。ツアーで得た気づきや学びを日本でも活かしていきたいと思えます。
- ❑ タイ東北部に伝わる伝統的な習わし、バイシーの儀式で村人たちが私たちの健康と成功を祈ってくださいましたこと、遠く離れても心は1つであると願ってくださったことの感動を忘れず、日本でも学び続けていきたいと思えます。



農村を歩いて考える カンボジアスタディツアー

- ❑ 一番印象に残ったのは、プレイベンの村での乳幼児健診の見学、そしてお母さんたちとの意見交換です。SHAREスタッフはもちろん、保健ボランティアさんと保健センタースタッフの方々などその村の住民たちが中心となり、協力し合って健診を実施していること、そして健康教育を真剣に聞いているお母さん方の姿に驚かされました。
- ❑ カンボジア人スタッフの方がいつもあたたかくお声がけくださったこと、優しいクメール語指導、そして最後のパーティーでシャイな日本人では真似できない、陽気なダンスを披露いただいたこと、本当に楽しい思い出となりました。



ツアー全体の感想

- ❑ 現地での出会いはもちろん、ツアー参加者との出会いも大きな刺激になりました。職業や年齢、バックグラウンドは違えど、国際保健や国際協力に興味を持っているメンバーと、楽しいことや考えること等、すべてを共にしました。最後のグループワークでは、「自分たちにできる援助とは何か」という大きな課題に向かって、考えを共有し合うことができ、貴重な学びとなりました。
- ❑ 現地の人々と話し合い、価値観や習慣、生活を理解し、その上でニーズを見つけていくこと、そして現地の人々と共に、元々あるしくみを利用しながら、プラスアルファで改善できるポイントを見つけ、現地に合った方法で実践していくことが有効な支援だと感じた。

エイズプロジェクトの視察・参加やホームステイを通してタイ東北部の農村生活を体験するタイツアー、カンボジア国内の貧困州のひとつとして厳しい環境にあるプレイベン州の村にて子どもの健康を守る取り組みを見学するカンボジアツアー。旅のさまざまなシーンで、今回のツアー参加者の皆さんの素敵な笑顔を見ることができ、開催して良かった、とスタッフ一同、実感しています。(編集部より)

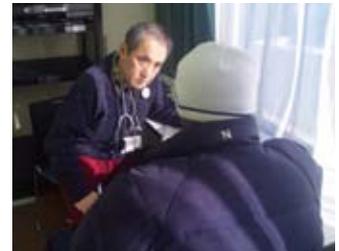
シェアとは

シェアは、保健・医療を中心とした国際協力活動を行っている民間団体(NGO)です。1983年に設立され、現在はタイ・カンボジア・東ティモールに看護師などのスタッフを派遣し、地域の人々と協力して健康を守る活動を進めています。国内では、外国人のための出張健康相談会やタイ語でのエイズ電話相談などにも取り組んでいます。医療関係者だけでなく、学生・主婦・会社員など多くの方が参加しています。

“いのち”の格差をなくそう 在日外国人保健支援

1990年代から急速に増加した外国人労働者。その中には、病気やけがになったときに言葉の壁や高額な医療費への不安から、医療機関に足を運ぶことを思いとどまってしまう人も少なくありません。医療制度の違いから病院に行かず、状態が悪くなってしまったケースもあります。シェアは、1991年より、医療サービスを受けることが困難な在日外国人への支援体制を整備して、健康が維持・増進できることを目標に、在日外国人保健支援活動を行っています。

無料出張健康相談会は、シェアが関係団体や外国人コミュニティと連携して、年10回程度、東京、神奈川、千葉で開催している支援活動の1つです。時間的にも経済的にも、健康に意識を向けることが難しい状況にある在日外国人の人々が、相談会で簡易健診を受け健康について相談できることによって健康を維持していけるように、心身両面に向けたサポートを目指しています。国籍や民族の違いを問わず、誰もが健康で暮らせる社会となるよう、シェアは、国内でも健康を守る取り組みをしています。



東京都で開催した健康相談会の様子

編集後記



東ティモール特集、いかがでしたか。東日本大震災のとき、日本の私たちのことを思い、折ってくれた温かい気持ち。与えられた環境の中で学び、成長していきたい、と前向きに取り組む姿勢。今号を通じて、東ティモールの方々の姿を読者の皆さんに伝えることができれば、と願っています。(juk)



創刊号から1年半が経過して、『シェアライフ』自身が、シェアや読者に定着してきた頃だと思います。次は、読者を増やしたい! カフェや学校など、置いてもらえる場所を教えてください!!(くろちゃん)



〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル5F
TEL 03-5807-7581 FAX 03-3837-2151
E-mail info@share.or.jp URL http://share.or.jp/

SHARE LIFE volume005 2013年1月発行

発行人 本田 徹
編集 SHARE LIFE 編集委員会
発行所 (認定) 特定非営利活動法人
シェア=国際保健協力市民の会 (SHARE)
印刷 ベーテルフォト印刷株式会社

※シェアではSHARE LIFEを設置していただける施設・店舗を募集しております。お問い合わせは、メール、お電話にてご連絡よろしくお願いたします。

※SHARE LIFEの編集ボランティアを募集しています。文章を書くのが好きな方、ライター・編集経験がある方、デザインが得意な方etc.お待ちしております。また配布のボランティアスタッフも募集中です。ご連絡はinfo@share.or.jpまで。

